

# CMSC JOURNAL

Vol.9



ツール・ド・東北にて、高橋光男ランサー

## '85 JMRC東北ラリーチャンピオンシリーズ、シリーズチャンピオンに輝く！ CMSC福島 高橋光男選手おめでとう！

### シリーズ3位

CMSC青森  
福士文秀選手  
(ランサー)



岩手三菱  
ダイヤモンド  
ラリーにて

### シリーズ4位

CMSC福島  
高野正伸選手  
(コルディア4WD)



岩手三菱  
ダイヤモンド  
ラリーにて

### 第1回ツール・ド・佐渡 総合3位

CMSC栃木  
亀田恒夫選手  
(ランサー)



ツール・ド・佐渡を  
スタートする亀田ランサー

## 全国CMSCの皆さま 明けましておめでとうございます。



CMSC 会長 外川一雄

各支部の皆さまをはじめ、クラブ運営に尽力された幹部の方々、競技会開催にご苦労された競技役員メンバーの方々、更に日頃のトレーニングの成果を各種競技会に生かされ優秀な成績を残された選手の皆さん、本当にご苦労さまでした。全国CMSCの皆さまの活

力が集大成され、昨年とはまことに充実した年として終ることが出来ました。これは取りもなおさず我が国のモータースポーツ界におけるCMSCの権威として高く評価されるものと確信します。

すでに本年も皆さまは、それぞれの計画をお持ちのことと思いま

すが、ぜひ、皆さま共々長年かけて作り上げた団結と人の和を大切に、各支部との連携を密により一層皆さまひとりひとりのモータースポーツがCMSCをベースにすることによって楽しく展開されることを期待します。

皆さまのご健康をお祈りします。

# '85CMSC全国大会を開催!



和気あいあいとした中、新たな活躍を目指して

11月3日(日)、'85CMSC全国大会が千葉で開催されました。

午前11時、オートランド千葉に外川会長を始め全国各支部の代表、(株)ラリーアートの代表など50名が集合。本部からのあいさつがあった後、講習会となりました。コーチはADVANスタリオンを駆る山内伸弥氏と国際ラリスト篠塚建次郎氏、日本タートトライアル界No1ドラ

イバーの栗津原豊氏という豪華な顔ぶれ。皆さん和気あいあいと日頃の腕前を披露していました。

夕日と共に篠原ホテルに場所を移し、総会が始まりました。まず各支部から一年間の活動報告が発表された後、本部の田口雅生氏から、CMSC全体の新たな活動について提案があり、各支部の代表ごとに真剣な意見が述べられました。

“各地方に点在するモータースポーツを組織的に運営しているクラブはCMSCだけでなく、これからも楽しいモータースポーツが行なえるようにすることがCMSCの目的。皆さんの団結で新しい活動を実現し、より素晴らしいクラブにしていきたい”との外川会長のあいさつがありました。また(株)ラリーアートの荻ゼ



ネラルマネージャーのあいさつもあり、“各支部の活躍を、(株)ラリーアートができるだけバックアップしていきたい”と話されました。総会も無事終了し、賑やかな宴会の席へと移りました。



タイムトライアル、4車で1番 / 上泉コルティア4WD (CMSC福島)



タイムトライアル、2車で1番速かった / 福士の走り (CMSC青森)



これが中国モータースポーツ協会のバッジだ

趙さん(左)と柳さん(右)



浅野会長のランサーを駆り、岐阜で夜間練習

## ニーハオ! 中国ラリスト

中国モータースポーツ協会(CMSA)ラリー運動員、趙魏魏氏(29)と柳実氏(26)の2人が、CMSC全国大会に参加しました。

香港~北京ラリーを開催するなど、中国ではモータースポーツ熱がここ数年急上昇。そこで中国モータースポーツの将来を築くために、三菱自動車の全面協力のもと来日、1ヵ月半のラリー勉強の途中で訪れたものです。

勉強熱心な2人。コーチ役の山内伸弥氏、篠塚建次郎氏を昼食時もはなはず、質問の雨。山内氏が悲

鳴を上げる程でした。

「モータースポーツがこれから中国で大きくなるうえで、日本のトップラリストの山内先生、篠塚先生に教えていただいたことを、嬉しく思います。こんな大きなクラブがあるとは驚きです。もっと大きくなってほしい」と感想を話していました。

また、その後11月9、10日岐阜県恵那市をスタートするオールスター・ラリーフェスティバルを見学。CMSC岐阜の皆さんと再会。夜間走行の練習を行ないました。

## '85JAF全日本ラリー選手権——レポートfromナビゲーターズシート 今年も皆さんからのご声援を期待します!

### ラリーコースは最悪のコンディション “モンレー'85”

ホコリまみれの栗駒山ラリーから3週間。'85年のシリーズ戦も大詰めを迎えて第10戦、群馬スペシャリスト、通称“群スベ”大競演の“モンレー'85”は、祝日を使うため日・月曜の開催となる。前日の土曜日、スタート地点の草津には早くも、石黒監督をはじめ、数人のADVANチームが集合。さてはコースの下見か? と思いきやコースはコースでも緑がいっぱいのコースではしゃいでいるのでした。

快晴のグリーンに対して、ラリーのスタートはあいにくの小雨。本当のラリーコースのコンディションは、最悪

が予想される。まずは、テイルライトのギャラリーステージとして4つのSSを消化する。ここではパワーにものをいわせて、スタリオン・Zが他を圧倒する。初めてのコースが多く、“群スベ”もまだなりをひそめている。しかし、それもつかの間、第2ステージ・ラリー区間が始まると、あっという間に、“群スベ”が上位を独占していく。なにしろ、ターマックの区間でも130psの86で、230psのZをキロ1秒以上も離していくのだから、その差がわかるというものだ。

我ら羽豆チーム、1ステからエンジン不調。ターボ圧が不足している。神岡Zとの差が少しづつ開いていく。「ヤバイな! サービスでいろいろとチエ

ックしてもらおうか。今一歩、電気系に問題があるらしく、完全にはなおらない。上位がつぶれるのを待つしかない。とりあえず、セコク走って、ひとつでも上位に入賞すべく頑張ることにする。しかし車の調子が悪いと、ドライバーの調子も今一歩乗りきれず、少しずつタイムが落ちてくる。2ステを終わって、いろいろと情報を集める。15位前後をウロウロしているようだ。10位以内に入らないとポイントにならない。3ステにかけよう。

3ステの山場、車坂の登りは霧が深くなって、またますます“群スベ”に有利になっていく。最後は国有林のフラットなコース、最後の力走を続けるが、今ひとつ決まらない。ゴールの草

津に戻ると、上位は“群スベ”が独占。神岡Zが健闘して、3位に割って入っていた。羽豆は10位。これでシリーズポイントは、神岡Zがトップにたった。さあ、残すは1戦のみ。

### 豪雨とバーストにたたられた “ハイランドマスターズ”

約1カ月のインターバルで迎えるのは、最終戦“MOSCハイランドマスターズ”。松本をスタートして高山をメインの舞台として行なわれる、往年の日本アルペンの名手“平さん”こと平林さんが指揮をとるこのラリー、オーソドックスなラリーとして定評がある。ぎりぎりのれるアベレージ設定は、ナビゲータの腕の見せどころ。30数キロ